

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300906
法人名	有限会社 エンジェルハウス
事業所名	グループホーム紙ふうせん
所在地	宇和島市三間町成家845番地
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが安心して暮らせるように、サービスの見直しや計画も、スタッフ、家族と情報提供を行い、要望、希望など聞き、ミーティングやスタッフ会などで話し合いながら介護を行い、又、研修や勉強会などにも取り組み、事故防止や質の向上を目指し、よりよいサービスが出来るよう日々努力している。介護の重度化の見られる方も増加しており、みとりの受け入れも毎年増加の傾向にある。今後も取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四国八十八か所の札所の近くにあり、事業所前は遍路地でお遍路さんに声かけすることもある。遍路地の長い花壇は季節の花で埋め尽くされ、利用者も苗付けに参加することがある。理念にあるように高齢になって機能が低下しても、紙ふうせんのようにふーわり、ゆっくり、時を過ごしてほしいとの思いを込めて、管理者をはじめ職員全員が利用者に対して優しい声かけや対応を徹底し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしながら利用者本位のサービスを提供している。利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに楽しく生活できるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム紙ふうせん

(ユニット名) A

記入者(管理者)

氏名 松岡 美春

評価完了日 平成 25 年 11 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 月1回スタッフ会議を行い、グループホームの正しい名称など勉強しあったり、紙ふうせんの名前の由来や理念など見直ししながら、いつでも初心に戻って現場に立つよう、話し合っている。実践出来なくても頭に置いて介護をしていくよう心掛けたい。</p> <p>(外部評価) 「ふーわり思いやり、ふーわり笑顔、ふーわりやすらぎ、まーるい心」という理念は、事業所名にもなっている「紙ふうせん」にあやかって利用者にも分かりやすく表記しており、玄関やホールに掲示している。職員は毎月振り返りを行い、初心を忘れない気持ちを持つことを大切にしている。管理者はじめ職員全員で理念を共有し、利用者の立場に立ったケアの実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 保育園や小学校への訪問や、ホームへの訪問など行き来したり、ボランティア、婦人会の方達との参加による納涼祭を行ったりして、地域の方々とのつながりを深めながら交流している。地域の方の参加が、継続出来ている。</p> <p>(外部評価) 地域に根ざした運営を行っており、近隣の保育園の運動会に参加したり、小学校と合同でミニ運動会を開催し児童から感想などの手紙をもらったりするなど、交流の機会が頻回にある。事業所の納涼祭には地域住民や婦人会、ボランティア団体の参加があり、にぎやかに開催されている。近隣にある道の駅の協力を得て、利用者と一緒に飯ごう炊飯をして料理をつくる交流もしている。また、事業所で月に1回、認知症などの勉強会を開催する場合は、地域住民にも呼びかけ参加してもらうなど日常的に交流が持てるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人からの問い合わせや相談があった時は、分かり易く対応できるよう、全員が連絡を取り合ったり、運営委員会で情報提供したりしながら活かしている。運営委員会での議題も地域をとらえたものになりつつある。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の開催により、出席者と共に情報交換、現状報告等を行いながら話し合い、向上、改善に活かしている。出席者の開拓にも努めていきたい。他の事業所への委員会に参加させてもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、小学校長、保育園長、道の駅々長、自治会長、市担当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の活動や課題等を報告し、参加者と色々な角度から意見交換がされている。医師や看護師等を招き、会議と同時に勉強会を行う工夫もしている。今後は利用者や家族の参加等を考慮し、さらにサービスの向上につながる会議が開催できるよう取り組む姿勢がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村からの要求や依頼に対しては、業務に支障のない範囲で協力させてもらったり、情報提供の場などがあり、協力関係を築くようにしている。民生委員会への参加（随時）を希望したい。市町村の協力を得ながら、よりよいネットワーク作りに努めたい。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、利用者の相談など連携を深めている。日常的に報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。2か月に1回介護相談員が訪問し、良き相談相手となり利用者の楽しみに待つ姿がある。また、市や社協、福祉関連事業所で開催する三間守連絡会にも参加をして、情報交換をしている。市が開催する研修等に積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束はしていない。その分見守りはスタッフ同士強化している。施設内、居宅内には鍵はかかっておらず、自由に行動してもらえるように心掛け、拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束に対する意識も徐々に深まり、スタッフ同士確認しあったり、ミーティングで話す機会が増えた。</p> <p>(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフ会議でも話し合いを行い、身体拘束の正しい理解ができるように努めている。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするように心がけている。日中は玄関の施錠をせず、音や目配りをして利用者の安全確認をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<u>(自己評価)</u> 意見箱を設けて、苦情や委員会などミーティング時に話し合い、虐待防止の徹底に努めている。言葉の虐待に、特に気を付けるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<u>(自己評価)</u> 研修を受けた者もいるが、内容の把握は難しいので、参加資料を職員の休憩室に置き、目を通してもらえるよう指導している。理解し実践出来るのは難しいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<u>(自己評価)</u> 入居時に説明し、理解と納得の上で入居してもらっているが、特に問題のある場合には、個別に説明し、同意を得るよう図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<u>(自己評価)</u> 面会時など、管理者が対応し、意見、要望の受け入れが出来やすいような環境を作ったり、日々コミュニケーションがしっかり取れるよう心掛け、苦情、意見などあった場合は、改善に向けて反映させている。報告書など、新しいものは、早めにファイルしたり、掲示したりして目に届くようにしている。 <u>(外部評価)</u> 利用者から日々の生活の中で意見や要望を聞くように努めている。家族から訪問時に意見や要望を聞くように努めている。遠方の家族には毎月報告書を送付し、電話等こまめに連絡を取るようにしている。管理者だけでなく職員全員で関わるよう取り組んでおり、出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 週1回のミーティングや、月1回のスタッフ会議などで、問題点や要望など話し合いの場を設け、気軽に話が聞ける機会を持つようにして反映させている。問題のある場合は、個人的に話す機会を持つよう努めていたり、意見交換や提案を出し、問題解決の足掛かりとしている。 (外部評価) 毎月のスタッフ会議で職員から意見や要望を聞くよう努めているが、意見がある場合はその都度対応している。職員から意見はよく出ており、管理者と職員は気づきや提案を言いやすい関係を築いている。出された意見は代表者などを通して反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 休憩室などあり、ゆっくり休むことが出来たり、希望休、リフレッシュ休暇など考慮して、職員同士が働きやすく、各自が向上心を持てるよう整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修などを受ける際は、希望者を優先する一方、研修も一人ばかり行くのではなく、全員が参加出来るよう考慮しながら進めている。自己学習に消極的なスタッフの対応も考え、実践トレーニングなども取り入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡会などの情報交換や勉強会に参加し交流をはかりながら、ネットワーク作りや、質の向上に取り組んでいる。同業者同士の情報交換にも努めているが思うようにならないのも現実である。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時や体験入所された時など、きめ細やかなサービスが出来るよう、本人、家族の話をよく聞き、安心が確保出来るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に話し合う時間を十分取り、利用者や家族に安心してもらえるような関係作りに努めている。希望者は体験入所の受け入れもしている。こまめな情報交換を行いながら信頼関係に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族、関係スタッフでゆっくり話しをしながら、しっかりアセスメントを取り、サービスの対応に努めている。他施設への利用なども助言している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来るだけ本人のペースを崩さず行動するよう、スタッフに日々指導しながら、共同生活であることも利用者に理解してもらえるよう話しかけ、お互いが支え合っていく関係を築いていけるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や外出、外泊など、自由にしてもらい、家族との関係を忘れないようにするために、本人への支援をしながらお互いの関係を築いていけるよう努めている。家族会による協力が得られている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が大切にしている物や、思い出のある物は、家族と相談して、ある程度までは自由にしており、手紙や電話の受け入れは自由とし、今までの関係が切れないうち支援している。 (外部評価) 近くのお寺にお参りに行くなど、利用者の行きたい所に家族の協力を得る等して、出かけるよう努めている。友人や知人の訪問があり、職員は気持ちよく迎え入れている。友人に電話をかけた手紙を書いたりする利用者には、連絡を取り持つつながりを継続できる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、フロアにて過ごすよう心掛け、レクリエーションや、生活の中で他の利用者との関わりを大切にしながら、仲間同士お互いが助け合い、支え合って仲良く生活が出来るようスタッフが援助するよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方より知人の紹介があったり、再入所の申し込みがあったりして、スタッフと家族の方との関係を大切にしていけるよう日々努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思表示の出来る方と出来ない方が様々なので、その人の事をしっかり把握できるよう、スタッフ同士情報の交換など密にし、本人をよく知るよう指導している。担当を決め個別ケアと、よりよい気付きに努めている。 (外部評価) 利用者の一人ひとりに向き合いながら、職員は日々の会話の中から思いや希望を聞き取るように努めている。把握が困難な利用者には、表情や動作をくみ取り思いや意向の把握に努めている。把握した内容は話し合いや記録等で職員全員で共有し、利用者一人ひとりと寄り添い、かかわりを持つように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時からのアセスメントを確認しながら、その人の生きてきた生活環境などを面会時の家族の方などから情報収集し、生活歴を参考にしながらサービスに取り入れていけるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのバイタルチェック表、受診報告書、介護記録などにより健康状態や、心身状態の変化が分かるよう、ユニットリーダー、スタッフ同士の伝達に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回の全体会議や、何かの問題がある毎に、各ユニットごとのスタッフ会議、面会時の家族と本人などにて話し合いの場を設け、その時の状況の変化等を対処法、意見をうかがいながら話し合い、よりよい介護計画への作成に反映されている。 (外部評価) 利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいかを考え、利用者や家族の意向を反映して、担当者を中心に話し合いを行い介護計画が作成されている。毎月モニタリングを行い評価を行っている。職員全員の意見も聞き取れるよう、ミーティング時の話し合いや記録などの確認を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 高齢になるにつれ、日動作激しく、日々変化の多い事ばかりなので、業務改善などで話し合ったり、研修に参加しながら、記録の必要性を自覚してもらい、出来るだけ本人の状態が分かるような記録の書き方など努力し、自然の会話や言葉がそのまま書けるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 受診時の対応や、その他必要性のある場合は、家族、本人の状態に対応したサービスの多機能化に取り組んでいる。日々の変化を記録に残し、職員同士で情報を共有しながら、その時に生まれるニーズに合ったサービスが提供出来るよう、必要性に合ったサービスの多機能化に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 学校、保育園、地域の方々との交流の場を設け、お互い協力しながら、地域の行事などの参加、ボランティアなどの協力、事業所の開拓に努めている。豊かな暮らしが限られた施設内で充実した日々を送ることが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医とのコミュニケーションもうまく取れており、相 談、診察など安心してている。かかりつけ医がある場合は、 本人、家族の意思を重視しながら、緊急対応先なども把握 できており、随時個別に対応しながら支援している。専門 病院が少なく選択が出来ない。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができる。 利用者や家族の希望で協力医をかかりつけ医に変更するこ ともある。専門医への受診に家族の同行が困難な場合は、 職員が同行し医師に利用者の状況報告を行うなどの対応を している。受診の困難な利用者には、協力医が往診をして 健康管理を行うなど、適切な医療を受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師の有資格者がいるので、相談、助言をしてもらった り、協力医の看護師と連絡を取り合ったり、デイサービスの 看護師のアドバイスを受けてたり、受診が適切に受けられ るよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院の際には、担当医と協力医との連絡を、電話や ファックスなど利用しながら、指示、助言などの情報交 換、相談など行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人の体調の変化には十分注意しながら、家族、かかりつ け医の指導のもと、スタッフ同士が状況把握をしっかり行 いながらチーム支援に取り組んでいる。状況に応じて、看 取り、延命等の話が出来る事も増えた。利用者も重度化し ている。 (外部評価) 事業所での看取りの経験をしている。状況の変化に応じ て、看取りについて利用者や家族に説明を行い意向を確認 している。運営推進会議で参加者と話し合いをしたり、看 取りをテーマに取り上げ勉強会を開催したりするなど、職 員全員で知識を高め不安なくケアが行われるよう努めてい る。看取り指針の作成については現在検討中である。	「看取りに関する指針」「ターミナルケア・マニユ アル」などを作成し、事業所としてできないこと できないことを明確にしておくことを望みたい。利用者や家族 の希望に添えるよう個別の対応方法を職員全員で話し 合い、医療との連携や共有化を図りながら終末ケアが 実践できるような取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会や自施設での勉強会、ミーティングなどで対応策を話し合ったり、マニュアルによる指導をしながら、また、スタッフルームにも随時掲示したりして実践している。データの見直しなども行いながら改善、実践に結び付くよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練や緊急連絡網、避難経路など掲示したり、緊急時の役割分担などもスタッフルームに掲示したり、運営委員会にて、地域代表者などにも協力をお願いしている。年1～2回夜勤体制での訓練を予定している。9月に地域の合同訓練を行う。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練では、地域住民の参加が少ないため地域住民を交えた訓練が行えるよう努力したり、備蓄等にも配慮するなど利用者の安全安心な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。また、地域の合同防災訓練にも参加し、地域の協力体制にも対応できるよう努めている。合同訓練では、車いすの利用者の避難を行ったが、避難場所となっている小学校まで急な勾配があるため、新たな避難場所も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや情報など守秘義務に関しては、随時、徹底して繰り返しながら言い聞かせ、携帯電話のメールや、日常の言葉使いにも十分配慮しながら対応していくよう日々指導している。見守り、声かけ等には、一人ひとりの尊厳を重視した支援を心掛けている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配った声かけや対応を心がけており、利用者一人ひとりの人格を尊重することを大切にしている。周りから聞くと方言が強い口調に聞こえる場合があるため、利用者を傷つけていないか職員同士注意し合いながら、日々の会話の中でも利用者には不信感を与えないよう配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定出来る時は受容を心がけ、出来ない人の為には、家族、スタッフ等で話し合いながら行って本人の要望など、出来るだけ受け入れ出来るように努め、個々に合った援助内容を計画し、実践出来るよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに合わせたペースや、くつろぎ方などに心配りを忘れず、また、利用者同士の会話や交流を自由に行ってもらい、その場をゆったりと、スタッフは見守りながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理、美容は2ヶ月に1回の割合で希望され、業者と連携しながら行い、洋服などの選択は本人が行ったり、スタッフと一緒に選んだりする時もあり、出来ない部分を支援している。服のはみ出し、髪の毛の乱れなど、気を付けるよう指導している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来るだけ採れたての物や旬のものを使用するよう心掛け、新鮮味、季節感等を味わいながら、好み、調理法、味付けなど手伝ってもらったり、教えられたりしながら調理したり、片付け、準備など一緒に行っている。 (外部評価) 採れたての野菜や旬の物を使用するよう努め、職員が献立を立て調理している。利用者の好みのメニューを行事食などに取り入れ提供したり、おやつも手作りが多く利用者の楽しみとなっている。調査時には、利用者と職員が同じテーブルを囲んで、楽しく食事をしていた。台拭きや食器拭きなど、利用者ができることを手伝っており、楽しい食事のひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 本人の状態、習慣などにより、水分、体重、などチェックを行ったりしながら、食事の量や、栄養バランスなど考慮しながらスタッフが調理し、本人からの訴えも受け入れ、チェックをおこない支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを、声掛けや、見守り、一部介助などで行っている。義歯や口腔用品も定期的に洗浄し、夜間は義歯は取り外している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> ポータブルは使用しないで、トイレ誘導を主体に努めている。排泄チェックなど毎日行い、パターン、習慣など考慮、周知し自然な排泄に努めている。	
			<p>(外部評価)</p> トイレでの排泄ができることを基本として支援している。チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。ユニット毎に3か所トイレが設置されており、トイレ誘導をこまめに行いポータブルトイレは使用しないよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> バイタルチェックなどを参考にしながら、水分補給、運動、食べ物など注意しながら、出来るだけ自然排便出来るよう取り組んだり、便秘薬の指示をドクターに相談し、対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 本人の希望もあり2日に1回の割合で入浴している。本人の体調状況などにより変更になったり、必要時には毎日入浴に変更になることもあるが、本人の気持ちを主体に支援している。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者は週2回を基本として入浴することができる。利用者の希望があれば、毎日入浴ができるよう支援している。ユニット毎に個浴槽はあるが、併設のデイサービスの浴室を使用して、ゆったりと入浴ができるように支援している。利用者の体調などに合わせて、清拭や足浴等で対応し清潔保持に努めている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し無理強いしないよう心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> その時の状況で、色々な場所で自由に休んでもらったり、安心して眠れるために、スタッフがバタバタしないよう、寝る前の雰囲気作りにも気をつけながら支援している。出来るだけ薬に頼らず、日中の運動等で良眠出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフがA、B、Cと確認し、介助する際などにも再度確認するなどして、間違わないようスタッフ同士で確認し合い、変化などあった場合は、何度も間違わないよう注意して行い、かかりつけ医の指示を受けながら支援している。いつでも確認が出来るようにファイルし、きちんと伝達が行えるように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った役割や楽しみ事など、日常の会話の中から見つけ、日常生活に取り入れたりして気分転換の支援をしながら、本人が楽しめる暮らしを目指している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その時の希望を全て聞き入れる事は出来ないが、年間行事、月間行事をを決めたりして、本人の希望する買い物、外食、散歩など出来る範囲で支援している。 (外部評価) 玄関先の庭やリビング横のデッキは外気浴には最高な場所となっている。事業所の周りは自然豊かで季節の移り変わりを感じながら散歩することができる。徐々に寒くなり重度化も伴い外出が難しくなっているが、利用者の希望等を取り入れ、買い物や外食等を利用者が交代で出かけるよう支援しており、少しでも多く外出できるよう心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 大きなお金の預かりはお断りしているが、本人が必要とされている小口の現金は事務所で預かっており、必要な時本人に渡したり、代行で買い物をしている。本人には、なくなって支障がない分だけ家族が持たせているが、利用者同士、問題が起らないよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族の了解された人には、掛けたり、取次いだりしているが、時間だけは決めてもらっている。手紙などは本人に直接渡したり、読んであげたりしながら、本人の希望を受け入れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関、食堂などに季節の花を植えたり、飾ったり、窓ガラスなどは特殊な物を使用しており、寒さや、暑さ、湿度、プライバシーの保護などにも注意を払い、季節毎のボードの書き替え等気配りに努めている。</p> <p>(外部評価) 玄関先で手洗いやうがい等ができるよう洗面台が設置されており、感染予防に努めている。リビングの広い窓からは自然な光が差し込み、コスモス畑を見渡すことができる。24時間冷暖房完備で室温にも配慮している。入口のホールの壁には、小学生のミニ運動会の手紙が飾られている。利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有出来る空間には、ソファやテレビ、畳など設置し、利用者同士気軽に過ごせたり、レクリエーションを出来るスペースを工夫している。利用者の希望を取り入れながら、テーブルの席替えをしたりして、本人の居場所作りを心掛けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族と本人の希望される物は、出来るだけ持ち込めるよう受け入れているが、転倒の際などに危険性のある物は、最小限にしてもらい、ケガしないように配慮しながら過ごしやすいよう支援している。居室、リビングは自由に使用してもらい、自分の流れで行動出来るよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けとなっている。居室には利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、持ち物は制限はしていないがシンプルにまとまっている。転倒の危険を考慮しながらレイアウトなどの配置を考え、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下を広くとったり、設置してある手すりを、転倒防止や歩行訓練などに利用しながら、安全に生活が送れるよう工夫し、水滴など足回りも徹底し、事故防止などに努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300906
法人名	有限会社 エンジェルハウス
事業所名	グループホーム紙ふうせん
所在地	宇和島市三間町成家845番地
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが安心して暮らせるように、サービスの見直しや計画も、スタッフ、家族と情報提供を行い、要望、希望など聞き、ミーティングやスタッフ会などで話し合いながら介護を行い、又、研修や勉強会などにも取り組み、事故防止や質の向上を目指し、よりよいサービスが出来るよう日々努力している。介護の重度化の見られる方も増加しており、みとりの受け入れも毎年増加の傾向にある。今後も取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四国八十八か所の札所の近くにあり、事業所前は遍路地でお遍路さんに声かけすることもある。遍路地の長い花壇は季節の花で埋め尽くされ、利用者も苗付けに参加することがある。理念にあるように高齢になって機能が低下しても、紙ふうせんのようにふーわり、ゆっくり、時を過ごしてほしいとの思いを込めて、管理者をはじめ職員全員が利用者に対して優しい声かけや対応を徹底し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしながら利用者本位のサービスを提供している。利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに楽しく生活できるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム紙ふうせん

(ユニット名) B

記入者(管理者)
氏名 松岡 美春

評価完了日 平成 25 年 11 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 月1回スタッフ会議を行い、グループホームの正しい名称など勉強しあったり、紙ふうせんの名前の由来や理念など見直ししながら、いつでも初心に戻って現場に立つよう、話し合っている。実践出来なくても頭に置いて介護をしていくよう心掛けたい。	
			(外部評価) 「ふーわり思いやり、ふーわり笑顔、ふーわりやすらぎ、まーるい心」という理念は、事業所名にもなっている「紙ふうせん」にあやかって利用者にも分かりやすく表記しており、玄関やホールに掲示している。職員は毎月振り返りを行い、初心を忘れない気持ちを持つことを大切にしている。管理者はじめ職員全員で理念を共有し、利用者の立場に立ったケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育園や小学校への訪問や、ホームへの訪問など行き来したり、ボランティア、婦人会の方達との参加による納涼祭を行ったりして、地域の方々とのつながりを深めながら交流している。地域の方の参加が、継続出来ている。	
			(外部評価) 地域に根ざした運営を行っており、近隣の保育園の運動会に参加したり、小学校と合同でミニ運動会を開催し児童から感想などの手紙をもらったりするなど、交流の機会が頻回にある。事業所の納涼祭には地域住民や婦人会、ボランティア団体の参加があり、にぎやかに開催されている。近隣にある道の駅の協力を得て、利用者と一緒に飯ごう炊飯をして料理をつくる交流もしている。また、事業所で月に1回、認知症などの勉強会を開催する場合は、地域住民にも呼びかけ参加してもらうなど日常的に交流が持てるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人からの問い合わせや相談があった時は、分かり易く対応できるよう、全員が連絡を取り合ったり、運営委員会で情報提供したりしながら活かしている。運営委員会での議題も地域をとらえたものになりつつある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の開催により、出席者と共に情報交換、現状報告等を行いながら話し合い、向上、改善に活かしている。出席者の開拓にも努めていきたい。他の事業所への委員会に参加させてもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、小学校長、保育園長、道の駅々長、自治会長、市担当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の活動や課題等を報告し、参加者と色々な角度から意見交換がされている。医師や看護師等を招き、会議と同時に勉強会を行う工夫もしている。今後は利用者や家族の参加等を考慮し、さらにサービスの向上につながる会議が開催できるよう取り組む姿勢がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村からの要求や依頼に対しては、業務に支障のない範囲で協力させてもらったり、情報提供の場などがあり、協力関係を築くようにしている。民生委員会への参加(随時)を希望したい。市町村の協力を得ながら、よりよいネットワーク作りに努めたい。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、利用者の相談など連携を深めている。日常的に報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。2か月に1回介護相談員が訪問し、良き相談相手となり利用者の楽しみに待つ姿がある。また、市や社協、福祉関連事業所で開催する三間守連絡会にも参加をして、情報交換をしている。市が開催する研修等に積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束はしていない。その分見守りはスタッフ同士強化している。施設内、居宅内には鍵はかかっておらず、自由に行動してもらえるように心掛け、拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束に対する意識も徐々に深まり、スタッフ同士確認しあったり、ミーティングで話す機会が増えた。	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフ会議でも話し合いを行い、身体拘束の正しい理解ができるように努めている。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするように心がけている。日中は玄関の施錠をせず、音や目配りをして利用者の安全確認をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 意見箱を設けて、苦情や委員会などミーティング時に話し合い、虐待防止の徹底に努めている。言葉の虐待に、特に気を付けるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受けた者もいるが、内容の把握は難しいので、参加資料を職員の休憩室に置き、目を通してもらえるよう指導している。理解し実践出来るのは難しいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に説明し、理解と納得の上で入居してもらっているが、特に問題のある場合には、個別に説明し、同意を得るよう図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時など、管理者が対応し、意見、要望の受け入れが出来やすいような環境を作ったり、日々コミュニケーションがしっかり取れるよう心掛け、苦情、意見などあった場合は、改善に向けて反映させている。報告書など、新しいものは、早めにファイルしたり、掲示したりして目に届くようにしている。 (外部評価) 利用者から日々の生活の中で意見や要望を聞くように努めている。家族から訪問時に意見や要望を聞くように努めている。遠方の家族には毎月報告書を送付し、電話等こまめに連絡を取るようになっている。管理者だけでなく職員全員で関わるよう取り組んでおり、出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 週1回のミーティングや、月1回のスタッフ会議などで、問 題点や要望など話し合いの場を設け、気軽に話が聞ける機 会を持つようにして反映させている。問題のある場合は、 個人的に話す機会を持つよう努めていたり、意見交換や提 案を出し、問題解決の足掛かりとしている。 (外部評価) 毎月のスタッフ会議で職員から意見や要望を聞くよう努め ているが、意見がある場合はその都度対応している。職員 から意見はよく出ており、管理者と職員は気づきや提案を しやすい関係を築いている。出された意見は代表者など を通して反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 休憩室などあり、ゆっくり休むことが出来たり、希望休、 リフレッシュ休暇など考慮して、職員同士が働きやすく、 各自が向上心を持てるよう整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修などを受ける際は、希望者を優先する一方、研修も一 人ばかり行くのではなく、全員が参加出来るよう考慮しな がら進めている。自己学習に消極的なスタッフの対応も考 え、実践トレーニングなども取り入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡会などの情報交換や勉強会に参加し交流をはかりなが ら、ネットワーク作りや、質の向上に取り組んでいる。同 業者同士の情報交換にも努めているが思うようにならない のも現実である。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時や体験入所された時など、きめ細やかなサービスが 出来るよう、本人、家族の話をよく聞き、安心が確保出来 るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に話し合う時間を十分取り、利用者や家族に安心してもらえるような関係作りに努めている。希望者は体験入所の受け入れもしている。こまめな情報交換を行いながら信頼関係に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族、関係スタッフでゆっくり話しをしながら、しっかりアセスメントを取り、サービスの対応に努めている。他施設への利用なども助言している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来るだけ本人のペースを崩さず行動するよう、スタッフに日々指導しながら、共同生活であることも利用者に理解してもらえるよう話しかけ、お互いが支え合っていく関係を築いていけるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や外出、外泊など、自由にしてもらい、家族との関係を忘れないようにするために、本人への支援をしながらお互いの関係を築いていけるよう努めている。家族会による協力が得られている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が大切にしている物や、思い出のある物は、家族と相談して、ある程度までは自由にしており、手紙や電話の受け入れは自由とし、今までの関係が切れないう支援している。 (外部評価) 近くのお寺にお参りに行くなど、利用者の行きたい所に家族の協力を得る等して、出かけるよう努めている。友人や知人の訪問があり、職員は気持ちよく迎え入れている。友人に電話をかけたたり手紙を書いたりする利用者には、連絡を取り持つ等つながりを継続できる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、フロアにて過ごすよう心掛け、レクリエーションや、生活の中で他の利用者との関わりを大切にしながら、仲間同士お互いが助け合い、支え合って仲良く生活が出来るようスタッフが援助するよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方より知人の紹介があったり、再入所の申し込みがあったりして、スタッフと家族の方との関係を大切にしていけるよう日々努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思表示の出来る方と出来ない方が様々なので、その人の事をしっかり把握できるよう、スタッフ同士情報の交換など密にし、本人をよく知るよう指導している。担当者を決め個別ケアと、よりよい気づきに努めている。	
			(外部評価) 利用者の一人ひとりに向き合いながら、職員は日々の会話の中から思いや希望を聞き取るように努めている。把握が困難な利用者には、表情や動作をくみ取り思いや意向の把握に努めている。把握した内容は話し合いや記録等で職員全員で共有し、利用者一人ひとりと寄り添い、かかわりを持つよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時からのアセスメントを確認しながら、その人の生きてきた生活環境などを面会時の家族の方などから情報収集し、生活歴を参考にしながらサービスに取り入れていけるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのバイタルチェック表、受診報告書、介護記録などにより健康状態や、心身状態の変化が分かるよう、ユニットリーダー、スタッフ同士の伝達に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回の全体会議や、何かの問題がある毎に、各ユニットごとのスタッフ会議、面会時の家族と本人などにて話し合いの場を設け、その時の状況の変化等を対処法、意見、安全をうかがいながら話し合い、よりよい介護計画への作成に反映されている。 (外部評価) 利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいかを考え、利用者や家族の意向を反映して、担当者を中心に話し合いを行い介護計画が作成されている。毎月モニタリングを行い評価を行っている。職員全員の意見も聞き取れるよう、ミーティング時の話し合いや記録などの確認を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 高齢になるにつれ、日動作激しく、日々変化の多い事ばかりなので、業務改善などで話し合ったり、研修に参加しながら、記録の必要性を自覚してもらい、出来るだけ本人の状態が分かるような記録の書き方など努力し、自然の会話や言葉がそのまま書けるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 受診時の対応や、その他必要性のある場合は、家族、本人の状態に対応したサービスの多機能化に取り組んでいる。日々の変化を記録に残し、職員同士で情報を共有しながら、その時に生まれるニーズに合ったサービスが提供出来るよう、必要性に合ったサービスの多機能化に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 学校、保育園、地域の方々との交流の場を設け、お互い協力しながら、地域の行事などの参加、ボランティアなどの協力、事業所の開拓に努めている。豊かな暮らしが限られた施設内で充実した日々を送ることが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医とのコミュニケーションもうまく取れており、相 談、診察など安心してている。かかりつけ医がある場合は、 本人、家族の意思を重視しながら、緊急対応先なども把握 できており、随時個別に対応しながら支援している。専門 病院が少なく選択が出来ない。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができる。 利用者や家族の希望で協力医をかかりつけ医に変更するこ ともある。専門医への受診に家族の同行が困難な場合は、 職員が同行し医師に利用者の状況報告を行うなどの対応を している。受診の困難な利用者には、協力医が往診をして 健康管理を行うなど、適切な医療を受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師の有資格者がいるので、相談、助言をしてもらった り、協力医の看護師と連絡を取り合ったり、デイサービスの 看護師のアドバイスを受れたり、受診が適切に受けられ るよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院の際には、担当医と協力医との連絡を、電話や ファックスなど利用しながら、指示、助言などの情報交 換、相談など行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人の体調の変化には十分注意しながら、家族、かかりつ け医の指導のもと、スタッフ同士が状況把握をしっかり行 いながらチーム支援に取り組んでいる。状況に応じて、看 取り、延命等の話が出来る事も増えた。利用者も重度化し ている。	
			(外部評価) 事業所での看取りの経験をしている。状況の変化に応じ て、看取りについて利用者や家族に説明を行い意向を確認 している。運営推進会議で参加者と話し合いをしたり、看 取りをテーマに取り上げ勉強会を開催したりするなど、職 員全員で知識を高め不安なくケアが行われるよう努めてい る。看取り指針の作成については現在検討中である。	「看取りに関する指針」「ターミナルケア・マニユ アル」などを作成し、事業所としてできないことできない ことを明確にしておくことを望みたい。利用者や家族 の希望に添えるよう個別の対応方法を職員全員で話し 合い、医療との連携や共有化を図りながら終末ケアが 実践できるような取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会や自施設での勉強会、ミーティングなどで対応策を話し合ったり、マニュアルによる指導をしながら、また、スタッフルームにも随時掲示したりして実践している。データの見直しなども行いながら改善、実践に結び付くよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練や緊急連絡網、避難経路など掲示したり、緊急時の役割分担などもスタッフルームに掲示したり、運営委員会にて、地域代表者などにも協力をお願いしている。年1～2回夜勤体制での訓練を予定している。9月に地域の合同訓練を行う。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練では、地域住民の参加が少ないため地域住民を交えた訓練が行えるよう努力したり、備蓄等にも配慮するなど利用者の安全安心な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。また、地域の合同防災訓練にも参加し、地域の協力体制にも対応できるよう努めている。合同訓練では、車いすの利用者の避難を行ったが、避難場所となっている小学校まで急な勾配があるため、新たな避難場所も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや情報など守秘義務に関しては、随時、徹底して繰り返しながら言い聞かせ、携帯電話のメールや、日常の言葉使いにも十分配慮しながら対応していくよう日々指導している。見守り、声かけ等には、一人ひとりの尊厳を重視した支援を心掛けている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配った声かけや対応を心がけており、利用者一人ひとりの人格を尊重することを大切にしている。周りから聞くと方言が強い口調に聞こえる場合があるため、利用者を傷つけていないか職員同士注意し合いながら、日々の会話の中でも利用者には不信感を与えないよう配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定出来る時は受容を心がけ、出来ない人の為には、家族、スタッフ等で話し合いながら行って本人の要望など、出来るだけ受け入れ出来るように努め、個々に合った援助内容を計画し、実践出来るよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに合わせたペースや、くつろぎ方などに心配りを忘れず、また、利用者同士の会話や交流を自由に行ってもらい、その場をゆったりと、スタッフは見守りながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理、美容は2ヶ月に1回の割合で希望され、業者と連携しながら行い、洋服などの選択は本人が行ったり、スタッフと一緒に選んだりする時もあり、出来ない部分を支援している。服のはみ出し、髪の毛の乱れなど、気を付けるよう指導している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来るだけ採れたての物や旬のものを使用するよう心掛け、新鮮味、季節感等を味わいながら、好み、調理法、味付けなど手伝ってもらったり、教えられたりしながら調理したり、片付け、準備など一緒に行っている。 (外部評価) 採れたての野菜や旬の物を使用するよう努め、職員が献立を立て調理している。利用者の好みのメニューを行事食などに取り入れ提供したり、おやつも手作りが多く利用者の楽しみとなっている。調査時には、利用者と職員が同じテーブルを囲んで、楽しく食事をしていた。台拭きや食器拭きなど、利用者ができることを手伝っており、楽しい食事のひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 本人の状態、習慣などにより、水分、体重、などチェックを行ったりしながら、食事の量や、栄養バランスなど考慮しながらスタッフが調理し、本人からの訴えも受け入れ、チェックをおこない支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを、声掛けや、見守り、一部介助などで行っている。義歯や口腔用品も定期的に洗浄し、夜間は義歯は取り外している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ポータブルは使用しないで、トイレ誘導を主体に努めている。排泄チェックなど毎日行い、パターン、習慣など考慮、周知し自然な排泄に努めている。	
			(外部評価) トイレでの排泄ができることを基本として支援している。チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。ユニット毎に3か所トイレが設置されており、トイレ誘導をこまめに行いポータブルトイレは使用しないよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バイタルチェックなどを参考にしながら、水分補給、運動、食べ物など注意しながら、出来るだけ自然排便出来るよう取り組んだり、便秘薬の指示をドクターに相談し、対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望もあり2日に1回の割合で入浴している。本人の体調状況などにより変更になったり、必要時には毎日入浴に変更になることもあるが、本人の気持ちを主体に支援している。	
			(外部評価) 利用者は週2回を基本として入浴することができる。利用者の希望があれば、毎日入浴ができるよう支援している。ユニット毎に個浴槽はあるが、併設のデイサービスの浴室を使用して、ゆったりと入浴ができるように支援している。利用者の体調などに合わせて、清拭や足浴等で対応し清潔保持に努めている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し無理強いしないよう心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状況で、色々な場所で自由に休んでもらったり、安心して眠れるために、スタッフがバタバタしないよう、寝る前の雰囲気作りにも気をつけながら支援している。出来るだけ薬に頼らず、日中の運動等で良眠出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフがA、B、Cと確認し、介助する際などにも再度確認するなどして、間違わないようスタッフ同士で確認し合い、変化などあった場合は、何度も間違わないよう注意して行い、かかりつけ医の指示を受けながら支援している。いつでも確認が出来るようにファイルし、きちんと伝達が行えるように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った役割や楽しみ事など、日常の会話の中から見つけ、日常生活に取り入れたりして気分転換の支援をしながら、本人が楽しめる暮らしを目指している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その時の希望を全て聞き入れる事は出来ないが、年間行事、月間行事をを決めたりして、本人の希望する買い物、外食、散歩など出来る範囲で支援している。 (外部評価) 玄関先の庭やリビング横のデッキは外気浴には最高な場所となっている。事業所の周りは自然豊かで季節の移り変わりを感じながら散歩することができる。徐々に寒くなり重度化も伴い外出が難しくなっているが、利用者の希望等を取り入れ、買い物や外食等を利用者が交代で出かけるよう支援しており、少しでも多く外出できるよう心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 大きなお金の預かりはお断りしているが、本人が必要とされている小口の現金は事務所で預かっており、必要な時本人に渡したり、代行で買い物をしている。本人には、なくなって支障がない分だけ家族が持たせているが、利用者同士、問題が起らないよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族の了解された人には、掛けたり、取次いだりしているが、時間だけは決めてもらっている。手紙などは本人に直接渡したり、読んであげたりしながら、本人の希望を受け入れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関、食堂などに季節の花を植えたり、飾ったり、窓ガラスなどは特殊な物を使用しており、寒さや、暑さ、湿度、プライバシーの保護などにも注意を払い、季節毎のボードの書き替え等気配りに努めている。</p> <p>(外部評価) 玄関先で手洗いやうがい等ができるよう洗面台が設置されており、感染予防に努めている。リビングの広い窓からは自然な光が差し込み、コスモス畑を見渡すことができる。24時間冷暖房完備で室温にも配慮している。入口のホールの壁には、小学生のミニ運動会の手紙が飾られている。利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有出来る空間には、ソファやテレビ、畳など設置し、利用者同士気軽に過ごせたり、レクリエーションを出来るスペースを工夫している。利用者の希望を取り入れながら、テーブルの席替えをしたりして、本人の居場所作りを心掛けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族と本人の希望される物は、出来るだけ持ち込めるよう受け入れているが、転倒の際などに危険性のある物は、最小限にしてもらい、ケガしないように配慮しながら過ごしやすいよう支援している。居室、リビングは自由に使用してもらい、自分の流れで行動出来るよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けとなっている。居室には利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、持ち物は制限はしていないがシンプルにまとまっている。転倒の危険を考慮しながらレイアウトなどの配置を考え、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下を広くとったり、設置してある手すりを、転倒防止や歩行訓練などに利用しながら、安全に生活が送れるよう工夫し、水滴など足回りも徹底し、事故防止などに努めている。</p>	